

広報

環境カウンセラーちば

第40号
特定非営利活動法人
環境カウンセラー
千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省に認定された環境の専門家です。
環境調査、環境管理・監査、廃棄物対策、環境教育・学習などお気軽にご相談下さい。

あらたな体制でのスタートにあたって

理事長 國廣 隆紀

3月11日の東日本大震災で多くの亡くなられた方々に謹んでご冥福をお祈りし、地震、津波によって行方不明となられた方、数々の財産を失われた方、さらに原発事故による放射能汚染で避難を余儀なくされた方などに心よりお見舞いを申し上げます。

さて、先の5月15日の当協議会の通常総会で役員改選があり、そのあとの臨時理事会での理事長選出の互選により再度、理事長を拝命いたしました。

かえりみますと平成10年2月8日に環境カウンセラー千葉県協議会を設立して小角 浩、村上 利子の会長のもと、次いで平成15年7月22日にNPO法人になってから土田 茂通、戸村 泰の理事長のもとで築かれてきた当協議会ではありますが、2年前に理事長をお引き受けして以来、その重責に対して自問自答しているところであります。

当協議会設立13年半が経ち、まもなく15周年を迎えようとするときに新たな決意をもって粉骨努力をしていく所存ですので、皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

これまでの会員各位のご努力とご尽力はもとより県内外の方々のご理解とご支援もあって、当協議会は輝かしい成果を残しつつあり、存在感がますます高まりつつあるものと思います。

一昨年11月3日には、森田健作千葉県知事から県内の環境保全に寄与したとして「文化の日千葉県功労者表彰」を受け、昨年6月7日には、環境大臣から「地域環境保全功労者」として荣誉ある表彰を受けてきました。さらに本年3月には、生活協同組合ちばコープ殿から県内での地域活性化などにむけて活動したとして社会貢献賞「ちばコープ地域かがやき賞」を受賞し、また本年6月24日には、日本水環境学会関東支部から浄化槽に関する啓発活動は地域の水環境保全に重要な業績であるとされ「水環境保全活動奨励賞」をいただきました。

このような表彰を励みとして、当協議会はさらなる活発な活動を展開していきたいものと思います。

今回の東日本大震災による被害、影響は甚大であり、社会システムおよび市民生活の面で安全対策、環境対策の脆弱性が露呈しました。

とくに原発事故で、原発を大きく位置づけたエネルギー供給計画も根本的な変更を余儀なくされる現状にあって、京都議定書の温室効果ガス削減の約束とポスト京都議定書としての新たな中期目標「温室効果ガス25%削減」への達成も危ぶまれます。いま必要なのはさらなる省エネルギーと新エネルギー利用への取り組みしかないと思います。また当協議会がこれまで取り組んでいなかった放射能汚染による土壌、水、食物などの汚染問題も出てきて、活動の機会が与えられたと意識しなければならないと思います。

これらの取り組みは多くの情報の効果的な取り込み、会員各位の豊富な知識と経験との融合思考、自由闊達な意見交換と先取りした計画・意思決定のもとで行動したいと思います。

当協議会で一昨年度から実施の水環境対策センター事業の「浄化槽使用者に対する水質保全に関する啓発教育」は、県内の60万台の浄化槽の使用者への啓発により水質改善に必ずつながるので、新たに「浄化槽啓発特別プロジェクト」を立ち上げて取り組むことにしました。

また、昨年度の秋季研修会で取り上げた生物多様性保全への取り組みのために当面、「生物多様性研究会」を立ち上げ、県内での問題認識の整理と取り組むべき活動の方向付けをすることにしました。

このようなことから当協議会が取り組むべき分野も広がりつつあり、副理事長も従来に変えて担当制とし、戸村 泰、服部 達雄、茂利 晃、種本 利治、古畑 義正の5名の方々をお願いすることとしました。組織内の各役職をはじめ会員全員が一丸となってあらたな体制で効果的な活動をされますようお願い申し上げます。

第9回通常総会を開催

第9回通常総会が平成23年5月15日(日)に千葉市市民会館特別会議室において開催された。

会員総数127名に対し、96名の出席(うち、委任状41名)があり、定款第27条により定款第24条に定める通常総会として成立した。

議長に國廣隆紀理事長を選任し、次いで國廣議長の下で書記に二宮恵氏、種本利治氏を、議事録署名人に戸村泰氏、宮田勉氏を選任し、次の議案を審議した。

(1) 第1号議案「平成22年度事業報告ならびに決算報告」：國廣理事長が理事長総括を、服部事務局長が各部等の報告と決算報告を説明した。

(2) 第2号議案「平成22年度監査報告」：廣川監事から「事業の遂行および財産の状況は公正かつ妥当であることを認める。」との監査報告がなされた。

第1号および2号議案に関し、質問・意見は「義援金をどこへ贈ったか」との1件のみであった。そこで議長が定款第28条に基づき第1号議案および第2号議案の議決を諮り、賛成多数で承認された。

(3) 第3号議案「平成23年度事業計画案ならびに予算案」：國廣理事長が理事長運営方針を、各部等の計画と予算案を服部事務局長が説明した。

質問・意見は「広報発行は昨年2回だったが今年は3回行うのか」との1件のみであった。そこで議長が第3号議案の議決を諮り、賛成多数で承認された。

(4) 第4号議案「役員改選」：議長が議案書に沿って役員任期満了に伴う定款第14条に基づく役員改選の趣旨説明を行い、選任方法を諮ったところ、理事長案を提示するよう提案があり、過半数の賛同を得て理事長が新たな理事、監事の選任候補を提案した。この提案に対して質問および意見は特になく、ここで議長が裁決を行ったところ、賛成挙手多数でもって承認され、理事、監事として以下の諸氏が選任された。

(理事) 青木誠、阿部邦夫、上口清彦、國廣隆紀、鈴木優子、種本利治、辻川毅、土田茂通、戸村泰、中庭武雄、橋本正、長谷川三喜雄、服部達雄、古畑義正、見並勝佳、宮田勉、茂利晃、山口由富子、吉田昌弘(以上19名)

(監事) 廣川一男、吉海照直(以上2名)

総会終了後、臨時理事会を開催し、定款第14条に基づき理事長および副理事長を選任して、さらに各役職を決定し、総会出席者に役員・役職名簿が配付された。

なお、今総会をもって、二宮恵氏、野口康男氏、石黒忠氏、西田啓作氏が理事を、藤田忠宏氏が監事を退任された。長年にわたり本協議会の運営・発展にご尽力された各氏に感謝する。

平成22年度において特筆されることは、平成22年6月に環境大臣から「地域環境保全功労者」表彰を受け、さらに平成23年3月に「ちばコープ地域かがやき賞」を、平成23年6月に日本水環境学会関東支部「水環境保全活動奨励賞」を受賞したことである。当協議会の活動が外部から高く評価されていることの証であり、日頃の会員各位の協力の賜物である。

平成23年度においては、これまでどおり、(1)「環境セミナー」、「企業/施設見学会」、「秋季研修会」、「環境公開講座」、「自然観察会」等の環境保全推進事業、(2)「エコメッセ2011 in ちば」等の各地の環境イベントへの出展・参加を主とする環境保全啓発事業、(3)学校、自治体等の環境学習、環境授業への講師派遣事業、(4)EA21地域事務局(千葉県環境財団)と連携しての「EA21普及活動」や「企業環境セミナー」、「内部監査員養成講座」等の中小企業の環境経営への支援事業、(5)水環境対策を主軸とする政策提言事業、に取り組んでいくが、特に、浄化槽に関する啓発活動については、特別プロジェクトとして積極的に取り組むこととし、さらに、「生物多様性研究会」を設置し、生物多様性に関する活動を具体化していくことにした。

これらの事業を推進していく上での基本は会員各位の活動であり、できるだけ多くの会員の活動参加を仰ぎ、会員の有する豊富な知見・社会経験を生かして着実に成果を出していくようにしたい。さらに、千葉県や地元自治体との連携・協力関係の深化、環境省施策への参加、環境カウンセラー全国連合会(ECU)への協力関係の継続にも十分に配慮することとする。

(副理事長、事務局長 服部 達雄)



特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会

役員

理事（19名）

青木 誠	種本 利治	橋本 正	宮田 勉
阿部 邦夫	辻川 毅	長谷川 三喜雄	茂利 晃
上口 清彦	土田 茂通	服部 達雄	山口 由富子
國廣 隆紀	戸村 泰	古畑義正	吉田 昌弘
鈴木 優子	中庭 武雄	見並 勝佳	

監事（2名）

廣川 一男	吉海 照直	
-------	-------	--

役職

理事長	國廣 隆紀	環境学習センター長	中庭 武雄
副理事長(環境学習)	戸村 泰	副センター長	阿部 邦夫
副理事長(事務総括)	服部 達雄	副センター長	吉田 昌弘
副理事長(事業総括)	茂利 晃	副センター長	山口 由富子
副理事長(EMS)	種本 利治	水環境対策センター長	見並 勝佳
副理事長(水環境)	古畑 義正	副センター長	上口 清彦
事務局長	服部 達雄	浄化槽啓発特別プロジェクトリーダー	上口 清彦
次長	長谷川 三喜雄	プロジェクトサブリーダー	久保田 隆
総務部長	古畑 義正	プロジェクトサブリーダー	見並 勝佳
副部長(会計)	橋本 正	生物多様性研究会長	鈴木 優子
事業部長	茂利 晃	研究会副会長	中庭 武雄
副部長	長谷川 三喜雄	EA21 地域事務局担当	服部 達雄
広報部長	國廣 隆紀	相談役・ECU 担当	土田 茂通
副部長	佐藤 素子	顧問・ECU 担当	小角 浩
情報部長	服部 達雄	顧問	荒野 喆也
副部長	有馬 富穂	顧問	有馬 富穂
EMS 支援センター長	種本 利治	顧問	二宮 恵
副センター長	宮田 勉	アドバイザー	大山 長七郎
副センター長	服部 達雄	アドバイザー	林 正徳
副センター長	青木 誠	アドバイザー	小関 光二
副センター長	吉野 定治	アドバイザー	本間 格
副センター長	田 博秋	アドバイザー	倉田 智子
地球温暖化対策センター長	辻川 毅	アドバイザー	小野 鈴子
副センター長	吉田 昌弘	アドバイザー	佐藤 素子
廃棄物対策センター長	宮田 勉	アドバイザー	西田 啓作
副センター長	大山 長七郎	アドバイザー	野口 久
		アドバイザー	野口 康男

第21回環境セミナー

(第9回通常総会 特別講演)

「水環境保全の新たな展開」

講師 東北大学大学院工学研究科

客員教授・理学博士 須藤 隆一氏

1. 震災により生じた廃棄物が水環境に非常に大きな悪影響を与える

震災により発生した「がれき」などの廃棄物は2500万～3000万トンになり、東北3県の30年分の廃棄物に相当する。一次保管まではできているが、この「がれき」も水環境に与える影響は大きい。分別し、リサイクルすることを真剣に考えなければならない。

阿武隈川流域下水道は低地にある処理場、ポンプ場が壊れ機能していない。生活排水や下水は簡単な沈殿処理と塩素滅菌だけで、海域に流れているのが現状である。生物処理をする下水道施設の復旧には2年から3年の期間が必要となるであろう。

浄化槽は、地下埋設であるので津波による破壊は少なく、全体の数%が破壊されただけである。

2. 今後の汚水処理のあり方

今後の汚水処理のあり方の協議を昨年農水省、国土交通省、環境省の三省で開始している。須藤先生は有識者等委員会(8名)のメンバーであり、今回は6月6日に開催の予定である。地区にあった汚水処理のあり方を考える必要があり、県や市町村が主体となるべきである。下水道施設が大規模化し、市町村の負担増となっている。浄化槽の維持管理や国庫補助がないのも問題である。「震災以降の汚水処理のあり方」として捉えるべきである。

3. 東日本大震災での水処理施設の破壊状況

須藤先生が自ら撮影された生々しい写真で、東日本大震災での水環境に与える影響について説明が始まった。先生は、あの日のあの時の約1時間前に仙台空港に到着され、大学の研究室におられた時に地震があったとのこと。先生のお宅は岩沼市内にあり、津波の被害は受けなかったが、ガス、電気、水道がない生活を数日過ごされたとのこと、まさに現場視点でのお話を聞くことができた。

防潮堤を超えた津波と「がれき」の山、倒れた防風林・防潮林、配管がずたずたになった下水処理場とポンプ場、機能が全く失われたし尿処理場など凄まじい写真であった。

ポンプ場が機能していないので、流入してくる下水は、仮設の水中ポンプで河川などに放流している。

し尿処理場も破壊され、収集されたし尿などは、地下にあるため破壊を免れた受け入れ槽に貯め、バキューム車で内陸部の山形県に移送して処理をしている。

浄化槽の被害は少ないようであるが、詳しい調査を急ぐ必要がある。仮置き場の廃棄物を分別しリサイクルすることも重要である。

4. 10年程度を見据えた展望

1970年代の「公害対策」から「水環境保全」へと政策転換してきたが、過去に解決されたとされている「公害」も対応が不十分である。もう一度見直す必要がある。

「地域の視点」、「グローバルな視点」、「生物多様性の視点」と「連携の視点」の四つの視点から水環境問題に取り組むべきである。

課題の例を挙げると、

- 水質事故件数が増大している。従来の「公害問題」である。事業者の自主規制だけではなく、地域社会での監視が必要である。例えば、皆様のような活動である。大企業による排水データの改竄には、水質汚濁防止法の改正で罰則規定が必要。しかし、市町村の職員数の減少で対応できなくなっているの、地方の環境研究所の充実を考える必要がある。
- 気候変動が水環境に与える影響は非常に大きい。特に気温上昇の影響は大である。
- 湖沼での水質改善の遅れがある
化石エネルギーではない自然浄化エネルギーによる住民参加型の湖沼再生が必要である。霞ヶ浦や有明海では、公共用水域の意識が薄く、生産者の論理である。例えば、有明海の海苔には窒素とリンが不可欠となり肥料を使用するなどである。さらに、日本の国土全体の富栄養化現象がある。世界中から食料や肥料を購入して日本国内に蓄積されている。閉鎖性海域での水質改善の遅れ等がある。面源汚水による窒素やリンの問題は解決されていない。
- 望ましい水環境像を踏まえた、実態を適確に表す指標(環境基準)の検討
 - ・ BOD、COD が水環境の実態を表した指標か、国民の実感にあった分かりやすい指標であるかなどの検討を行う。これらを水質指標とするのを止める根拠はないが、補助指標としての TOC、透明度と底部 1m での溶存酸素濃度などを検討している。
 - ・ 生物を使った水質指標で、バイオアッセイの一種で、WET システムもある。WET: 全排水毒性 (Whole Effluent Toxicity)
 - ・ 環境基準値の 10 倍を排水基準とすることの妥当性の検討
- その他
生物多様性と水環境、地下水汚染対策(タンクの破壊事故)に対する法律改正、放射線問題、東日本の海洋汚染、海外環境問題、水ビジネス等がある。

(水環境対策センター長 見並 勝佳)

自然観察会“佐渡”の思い出

毎年恒例の小角旅行会に参加させていただいた。

2006年の尾瀬を皮切りに上高地、十和田・八幡平、浅間・梅池から今回に続く。毎回、EC千葉会員とその家族や友人が20余名参加し、小角さんの名解説ののって自然と文化を満喫し、団欒の1泊を共にする。

今回は、2010年9月30日(木)と翌日の2日間で、佐渡島。両津港行きジェットfoilの中で資料を配布されて予備学習が始まった。昼時に上陸、早速、貸切りバスに乗って島内めぐりがスタート。

一日目は、大佐渡スカイラインの白雲台での見晴、佐渡金山の坑内、尖閣湾の遊覧船、平根崎の波蝕甌穴群を見学し、宿泊先の相川・ホテル吾妻では日本海の夕日を拝んだ。二日目は、大膳神社と妙宣寺で中世の歴史に触れ、千石船の里の宿根木、小木港、そして佐渡トキ保護センターの野生復帰ステーションを回った。

私にとっては40年ぶり2回目の佐渡であった。印象深かったのは、日本史で習った順徳天皇以外にも何人もの公家が流されて、公家文化の香りが高いこと、観光で近代化した金山、朱鷺の保護活動の一端を現地で見ることができたことである。

最後に、幹事役の林さんありがとうございました。

(副理事長 種本 利治)



平根崎の波蝕甌穴群



相川・ホテル吾妻にて

第10回環境公開講座開催報告

南極から見た地球環境

—第45次・第51次南極観測隊として

越冬した経験から—

1月22日(土)、千葉市民会館で朝日新聞社東京本社科学医療グループの中山 由美記者を講師に迎え、講演をしていただいた。

中山 由美記者は、2003年の第45次南極観測隊で日本女性記者として初めて越冬され、更に、2009年の第51次南極観測隊として再度参加されている。

南極の面積は日本の37倍(棚氷を含む)、その氷が溶けると海面が70mも上昇すること、氷の厚さは最大4800m(平均2000m)、地球の90%の氷は南極にある。

1911年アムンゼンが極点に立ち、1912年白瀬中尉は木造機帆船“海南丸”で向かい、南緯80度5分に到達し、1年後スコットが探検したが遭難している。

1957年の国際地球観測年に参加するため、日本は1956年に南極観測船“宗谷”で参加し、東オングル島に昭和基地を建設した。

昭和基地では、暦気楼、オゾンホール、CO₂濃度等を越冬して通年観測をしている。

さらに日本は1995年に昭和基地から約1000kmの標高3810mの内陸部にドームふじ基地を開設している。

ドームふじ基地での1996年の最低気温は-79.7℃を記録し、年平均気温が-54℃であった。

ここでは4年間かけてボーリングを行って深さ3035mに達し、得られた氷床コア中に含まれる空気・火山灰・宇宙塵等を分析する72万年前のタイムカプセル採取に成功している。

第51次南極観測隊でセールロンダーネ山地へ隕石探査に同行し、46億年前に太陽系が誕生した謎を語る隕石採取の様子、さらに11~4億5千万年前に起こったゴンドワナ大陸が移動した痕跡と思われる岩に描かれた不思議な模様は古文書のように思われた。

またドームふじ基地では、熱湯を空气中にまき瞬時に凍りダイヤモンドダストのようになる写真の撮影に成功した。

まさに南極ならではの厳しい気象や人懐っこいペンギンの生態を観察するなど記者魂を感じる広範囲の内容で素晴らしい講演であった。

(環境学習センター長 中庭 武雄)

秋季研修会開催報告

「EC 千葉として生物多様性に どう取り組むか」

平成 22 年度の秋季研修会は 11 月 13 日(土)、幕張のファミリー-INN にて名古屋での COP10 の開催、エコアクション 21 でも生物多様性に言及されたことを受け、EC 千葉が生物多様性にいかに取り組むべきかに主眼を置いて開催された。

会員 21 名の参加を得、講師には千葉県立中央博物館副館長で県の生物多様性センター長を兼務される中村俊彦先生をお願いし、午前中 2 時間お話を頂いた。

前半は写真を用いて COP10 の様子にも触れられ、次いで千葉県はサケの南限(九十九里)、サンゴの北限(館山湾)域であること、落葉樹の梨、常緑樹の枇杷(共にバラ科)の生産量が全国 1 位であり、豊かな多様性を有する県であると話された。

また「生物多様性ちば県戦略」は全国に先駆けて千葉県が真っ先に取り組み、これをたたき台に国の「生物多様性基本法」が策定されたと伺い一県民として誇らしく感じた。

1. 私たちの暮らしを支える生物多様性

- ・生物多様性とは分子、遺伝子レベル及び種全てにおける自然の変異を包含しつつ、さらに様々なランドスケールレベル(生態系)における自然の変化(中村氏資料より)
- ・生物多様性の危機 一自然環境の破壊、化学物質の汚染、田畑の耕作放棄、地球温暖化、外来生物
- ・生物多様性は私たちの生活や文化を支える資源や環境の基であり、「命の賑わいと繋がり」の総体である
- ・私たち人間も生物多様性の一員である
- ・多様性には「食べ物の多様性」「自然の多様性」「気候の多様性」がある
- ・持続可能な開発は効率を高めるが、多様性を減少させる
- ・「生物」の価値とは資源的価値であり、環境的価値であり、文化的価値であり、その指標である
- ・「多様性」の価値とはエントロピーの増大、不均質物質であり、無秩序であり、安定性・可能性が大きいことである

食べ物の多様性を例にとると白米一色であれば多様性は低いが、麦、粟、ヒエなどこれまで無用のものであった雑穀ご飯は多様性が高い。

また持続可能な開発とは持続可能な社会の維持と解せば、絶滅危惧種が増加の一途を辿る現状に歯止めが掛けられないという社会を維持することに他ならず、そのこと自体が多様性の減少に繋がるというお話には少なからず驚かされた。

2. 人の心と自然—生物多様性

中村先生は、子供達は物心が付くようになると先ず親と一緒に外に出て身近な自然を体験するタンポポ世代に入り、次いで保育園や幼稚園での集団生活を送る頃にはポケットに様々な物を忍ばせるダンゴムシ世代、小学校低学年になるとザリガニ世代へ、最後に木登り等の小冒険が出来る頃にはカブトムシ世代と位置づけられるとお話された。

今の子供達は自然と遊ばず家の中で過ごすことが多いが、人間は子供の頃の自然体験(いのちの体験)が不足することにより、自然欠損障害を起こし道徳感や正義感が不足するようになるとのお話には多くの会員が驚くと共に、子供達への自然体験活動の重要性に気付いたように思われる。

- ・日本人が日本について誇りに思うものは 1 位美しい自然 2 位長い歴史 3 位優れた文化や芸術
- ・時が過ぎても残したいもの → 自然の思い出
- ・地域の自然度が高いと心身の不健康度は低い
- ・逆に地域の自然度が低いと心身の不健康度は高い傾向

先生は世界各国の子供へのアンケートの結果についても触れられたが、「自分は孤独である」と感ずる子供は諸外国に比して日本が圧倒的に多かったそうである。「ホテルを見た子供の脳は活性化されるが、携帯やパソコンでは脳は働かない」、「自然と接することにより人の脳は甦る」というデータも示されたが、自然の中で人との繋がりや命の繋がりを体験する機会が少ない現状の裏返しとも思われる。

先生は都市の暮らしは人工的、グローバル化され外部依存型、里山・里海の暮らしは自然豊かでローカルで自立型であると述べられ、都市と里山・里海の間の中間の社会を構築すべく「里山・里海ルネッサンス(再興社会)」を提唱されて話を締めくくられた。

午後からは 2 グループに分かれて今回の研修会のテーマに沿ってワークショップに入った。

両グループ共に活発な意見交換とグループの纏め、発表ともに非常にスムーズに進んだように思われる。

各グループの発表を行った結果、今後協議会として、

- ① EA21 の活動の 1 つとして緑化エコリーダーを養成する
- ② 生物多様性の研究会を立ち上げる
- ③ ②を受けて中村先生と協働する、あるいは先生の指導、支援を仰ぐ

を今回の研修の纏めとした。

今後の活動に繋げられることを期待したい。

(アドバイザー 小野 鈴子)

生物多様性研究会を立ち上げ

このたび、生物多様性研究会の発足に当たり、会長を任命され、未熟者の私は身が引き締まる思いがいたします。ご教授のほど、よろしく願い申し上げます。

昨年10月の秋季研修会での千葉県立中央博物館の中村俊彦副館長による「生物多様性」の講演と研修を機に、EC千葉に「生物多様性」の部署を新設することとなり、準備会を経て、本年4月の理事会で「生物多様性研究会」として承認され発足しました。

バランスのとれた活動を目指し、研究会に生物多様性を根付かせる事が望まれます。しかし、準備会から研究会発足後も会員が少ない状況でもあります。

研究会の集まりを開き、先ずは自分たちが勉強することから始めよう、足がかりをつくりながら、やれるところから取り掛かろうとの合意ができました。

活動のスタートは、南房総市民環境大学講座のテーマのひとつとして「生物多様性—川の生き物を調べよう」を採択していただきましたので、これと関連した現地地下見・研修を研究会で行ったのち、市民環境大学講座の方々に講義と啓発を行い、その後、実際に南房総市とEC千葉がタイアップして「川の生き物調べ」の観察会を計画したいと願っています。

生物多様性の価値の一つに挙げられる指標生物中、水のきれいさの指標生物を紹介し、また、川の周辺の環境の自然度を調べる観察会となりそうです。

南房総市の海岸線はすべて国定公園、里海、里山、海洋、川、森、冬もお花畑などの観光が盛ん。昔から他県との交流のある港、町場、そして生物多様性に支えられた生業と魅力が尽きません。もっと南房総市を知りたい、ワクワクしながら、会の活動も続けていけたらと願っています。



こんな川の中の生き物を見つけて感動した日々を思い出しながら、ふるさと千葉で、命のつながりと、にぎわいを、もう一度とりもどしていきましょう。

新設の生物多様性研究会へ、あたたかいご支援、ご協力をお願い申し上げます。

(生物多様性研究会長 鈴木 優子)

浄化槽啓発特別プロジェクトを立ち上げ

「浄化槽使用者に対する水質保全に関する啓発教育の実施」事業については、広報38号、39号でも報告していますが、千葉県と協力して、平成21年度から県内21会場で延べ40回の講習会を行ってきました。

その他、浄化槽関連団体・民間企業の講習会も5会場で延べ8回の活動を通じて、浄化槽講習会関連の展開が次のように見えてきました。

- ① 千葉県は平成24年度から浄化槽行政を市町村に移管したいとの意向があること
- ② 千葉県行政以外の浄化槽関連3団体や民間からの依頼にも暫時講習依頼が増加傾向にあること

EC千葉としては4月の理事会にて、県内で60万基もある浄化槽の使用者を対象とする講習会実施対策として、多くの講師を養成することが必要であり、従来の「水環境対策センター」の事業から分離して「浄化槽啓発特別プロジェクト」を立ち上げることを提案し、承認されました。

先ず、最初にプロジェクトに参画を募ったところ従来の水環境対策センター員に加えて合計26名のプロジェクトとなりました。

当面の課題は、新たなプロジェクトメンバーを講師に養成することが喫緊の課題であるため、本年6月5日に第一回の講師養成講座を開催しました。

このように6月5日から活動を開始した「浄化槽啓発特別プロジェクト」の最終目的は浄化槽から放流される水質の改善にあります。

浄化槽の適正管理すなわち保守点検（維持管理）・清掃・法定点検の充実こそが求められます。それには浄化槽の使用者の理解と協力なしには達成できません。

そこでEC千葉の皆様が一人でも多くの受講者をお誘いして参加していただきたくお願い申し上げます。

(講習会の計画は、都度、お知らせいたします)
(浄化槽啓発特別プロジェクトリーダー 上口 清彦)



開催報告

第13回企業環境セミナー

平成22年10月15日(金)、当協議会は千葉商工会議所と共催で第13回企業環境セミナーを開催した。

有料参加者73名(昨年度66名)

1. 基調講演「経営に役立つISO14001」

－企業の実態と改善点－

講師：荒野喆也氏(当協議会顧問、ISO14001審査員)

① 「有効性審査」は規格がシステムとして有効に機能しているか

② 本業に関連したものを環境目的にする

③ 見える化による改善

④ 内部監査の機能強化

2. 事例紹介1「広栄化学工業株式会社」

(化学品製造業)

有効性を追求したISOシステムへの取組

講師：島津敏正氏(ISO推進室室長)

① 環境方針を社内方針と統合し、スリム化

② ISO9001と統合

3. 事例紹介2「千葉オイレッシュ株式会社」

(産業廃棄物処理業)

5Sの基本からさらなるリサイクル技術の構築に

講師：野村進一氏(代表取締役)

① 5Sでさらなるリサイクル技術の構築

② 見える化で気づきとなって改善

③ 経済効果900百万円/年、CO₂削減30ton/年

4. 講演

「原理・原則に沿った目的・目標設定と運用」

企業の目的を達成するためにEMSで環境パフォーマンスにより結果をもたらす方法

講師：山本光男氏(当協議会会員、ISO審査員補)

① 5ゲン主義=現場・現物・現実・原理・原則の思考をISO14001に応用。

② 高い目標値の設定には5ゲン主義。

(顧問 二宮 恵)



開催報告

EA21 地域普及セミナー

八千代市は平成22年2月に新エネ・省エネビジョンを策定し、その重点プロジェクトの一つである「エコアクション21(EA21)の普及」に取り組んで頂いた。

本セミナーでは八千代市は後援であったが、商工会議所への働きかけなど貢献度大で心より感謝したい。

日時 平成22年11月19日(金)13:30~16:50

会場 八千代台東南公共センター 2階会議室

主催 八千代商工会議所、EA21地域事務局千葉県環境

財団、NPO環境カウンセラー千葉県協議会

主催者挨拶 八千代商工会議所 専務理事 田中宏行氏

講演 ① EA21の取組方法と幼稚園の認証取得事例

講師 有馬富穂(当協議会顧問、EA21審査人)

② 八千代市地域新エネルギー

－省エネルギービジョンについて－

講師 谷口路代氏(八千代市環境保全課環境政策室)

事例紹介 EA21に取り組んでの成果

① 産廃業 (有)池田鋼業

② 機械製造業 サニー工業㈱

③ EA21の塾(集合形式で4回講座)について

講師 種本利治氏(当協議会理事、EA21審査人)

参加者は40名。

事例紹介では、特にISO14001からEA21に乗換えたサニー工業㈱の話に注目された。

本セミナーのフォローとして、EA21八千代塾を開催した。斎藤会計事務所のご好意で会場をお借りできた。

1月、2月、4月、5月の各1回の4回の塾。

7社、13名の参加であった。

柏市、千葉市、茂原市からも参加があり、ありがたかった。

(顧問、情報部副部長 有馬 富穂)



エコアクション21八千代塾 於 斎藤会計事務所

南房総市民環境大学で講義

南房総は、気候風土に恵まれ多くの旅行客が訪れる観光地として知られている。

平成18年3月、6町1村が合併して南房総市が発足した。料理の神様を祀る高家（たかべ）神社、日本最古といわれる野島崎灯台、400年前の英国庭園を再現したローズマリー公園、日本酪農発祥地である嶺岡牧場などがある。

今年度も南房総市から当協議会に市民環境大学を開催するための講師派遣をして欲しいと要請された。

日頃、3R推進と地球温暖化対策のために「モッタイナイの心で廃棄物を見直そう」と県内にPRしており、その講師派遣のテーマ候補として提案し、採択された。

平成22年11月13日（土）、講義の当日の道すがら、さすがに観光地だけあって市内の道路端にポイ捨てごみもなく、ほうきで清掃する市民もあり感心した。

会場の千倉保健センターには市民35名が出席され、テキスト、サンプル及び掛図により説明を行い、質疑応答を行った。

可燃ごみの過半数を占める雑紙は、分別し資源とすることによって、相当量削減することができる。この分別作業は市民の協力に負うところが多く、「モッタイナイ」の精神を市民一人ひとりに広げることがごみ処理費の削減にもつながることを認識していただいた。

（廃棄物対策センター副センター長 大山 長七郎）



白井市環境フォーラムに出展

平成23年2月26日（土）に恒例の白井市環境フォーラムが白井市文化会館で開催された。

白井市は市制10周年を迎え、環境基本計画の見直し策定を進めている。また環境100選を取りまとめ中であり、市民と一体となって環境整備に努力している。

環境フォーラムでは、横山 久雅子市長のあいさつ及び辻川 毅実行委員長のテーマの趣旨説明があったのち、「白井市の気象と温暖化問題—チャレンジ」と題して東京管区気象台総務課長の鈴木 淳氏により、気象に恵まれた千葉県について基調講演があった。

続いて事例発表では、小中学校生徒による清掃活動の取り組み、二酸化炭素排出量の減らし方について、地元福祉作業所のボランティア事業について、NPO しろい環境塾の田んぼの学校について、N社の廃棄物から生まれる新エネルギーについてなど、省エネルギー月間にふさわしい発表があった。

さらにパネルディスカッションでは、「白井市民の温暖化対策の行動」をテーマとして取り上げられ、活発な意見交換が行われた。

参加者はパネル展示会場の展示を熱心に見て認識を深めていた。当協議会は地球温暖化問題、廃棄物不法投棄問題について展示し説明した。市内の不法投棄の新聞記事もあり、今後も市民の監視が必要である。

（廃棄物対策センター副センター長 大山 長七郎）



木更津高専への出張授業報告

木更津高等専門学校（木更津高専）の特別授業に外部講師派遣の依頼があり、今年で連続3年間の実績となっている。

EC千葉では、「市民として環境問題に活動している事例を学生に見せ、自分達でできることを考えさせたい」との思いから、学生及び先生方からの期待に応えるべく準備した。

今年度は、昨年度と同様、環境都市工学科1年生約44名に対して、「環境とまちづくり・・・NPO法人の活動」についての紹介を依頼され、つぎの2事例の紹介を行なった。

- ① 千葉市の焼却ごみ1/3削減による200億円削減活動での行政と市民のかかわり（戸村泰氏）
- ② 自然循環型農業に活かす食品リサイクルの取り組み－メタンガス・液肥・堆肥の利用と Agri Bio Complex－（阿部邦夫氏）

①、②とも、種々のデータを基本としたアプローチで、一市民としてできることの重要性や、資源の乏しいわが国で知恵を駆使した資源リサイクルによる地域貢献を紹介した。

学生たちは、普段の講義とは異なる内容なので、熱心に聞き入っていた。講義のあと、学生たちからの感想文からも都市のごみ問題とバイオマスの利活用への関心が深まったことが分かった。

なお、授業は「環境都市工学概論Ⅰ」の講義の一環であったので、期末には学生たちのグループ研修の成果発表会に資することで、先生方からも好評であった。

木更津高専の上村教授、大久保助教授、湯谷講師からも感謝され、②で紹介した和郷園グループの見学を希望されるなど、木更津高専との交流がより継続して深まっていくことが期待される活動となった。

（環境学習センター副センター長 吉田 昌弘）



開催案内

第14回企業環境セミナー

環境カウンセラー千葉県協議会では ISO14001 に係る企業環境セミナーを開催しています。今年度は10月14日（金）に千葉商工会議所で開催します。

当初このセミナーは ISO14001 の構築を啓発することが目的でしたが、段々と成熟してきて継続的改善を目指す方向に変わってきました。

最近、ISO は何のメリットがあるのか議論されることが多く、そこで今年度はもう一度原点に戻って「ISO14001 よいシステム、役に立つシステム、有効なシステム」というタイトルで、ISO19011「監査のための指針」の制定時、日本代表であった市川昌彦氏に基調講演をお願いします。

日時 平成23年10月14日（金）13:00～17:00

場所 千葉商工会議所 14階第1ホール

主催 NPO 環境カウンセラー千葉県協議会
千葉商工会議所

基調講演 ISO14001 よいシステム、役に立つシステム、有効なシステム（内部監査で活性化）

講師 市川昌彦氏（環境 ISO システムサポート研究所所長、ISO14001 主任審査員）

事例紹介

① セイコーインスツル株式会社（精密機械製造業）
知恵と工夫でこんなにコストダウン

② 株式会社住化分析センター（試験サービス業）
分析試験サービス業における ISO14001 への取組

講演 ISO14001 とことん経営に活かすには
－プラスを増やそう、マイナスを減らそう－

講師 西田啓作氏（当協議会アドバイザー）

参加費 1,000円

環境カウンセラーの方もご出席ください。

申込先 二宮恵（Tel&Fax：0436-61-2083）

（顧問 二宮 恵）



自然観察会へのご案内

秋色迫る裏磐梯への自然観察会

本年度の自然観察会は、9月26日(月)、27日(火)の両日に行われることになりました。

千葉から往復ともバスを利用しますので、募集定員は25名とさせていただきます。

予定している行程は、福島西ICから磐梯吾妻スカイライン経由で浄土平に向かいます。ここでは、火山噴火によって生成された火山荒原とオオシラビソを主とする亜高山性の針葉樹林をはじめ、ガンコウラン、シラタマノキなどの高山植物群落を観察しましょう。

昼食後、レークライン経由で裏磐梯に向かい、約3.2キロの五色沼自然歩道を利用して、明治21年、磐梯山爆発によって生じた湖沼群を巡ります。

宿泊は、「休暇村磐梯高原」、ご夫婦一室を基準にしています。翌朝、磐梯山の眺望地として知られる中瀬沼遊歩道からの観察を楽しみましょう。

二日目は、やや趣を変えて、猪苗代湖岸から会津若松に向かい、午後は重要伝統的建造物群保存地区で知られる大内宿を見学後、近年開通した甲子トンネルを抜け、白川ICから帰途に着く予定です。

天候と道路状況に応じて若干の変更もあり得ますが、定員いっぱいのご参加を期待しています。

費用は概算25,000円/人を見込んでいます。

申込みは、E-mail qqew2up9@air.ocn.ne.jp

Tel 090-2247-6751

(幹事 アドバイザー 林 正徳)

(案内人 顧問 小角 浩)

新入会員紹介

矢野 和敏 (やのかずとし)

柏市

現在は、ISO環境マネジメントシステム及び品質マネジメントシステムの主任審査員として活動し、審査を通じて企業の環境パフォーマンス向上の手助けをさせていただいています。

これからは、エコアクション21審査人として中小企業の方々の環境への取り組み支援を活動に加え、さらなる環境負荷低減に寄与していきたいと思っております。

将来的には、家の近くに手賀沼がありますので、娘夫婦や孫など家族を巻き込みながら自然環境の保護などを視野に入れた活動ができればと考えています。

永井 望也 (ながい もとなり)

事業者部門 印西市

就職してから現役を引退するまで建設コンサルタントで環境業務に従事してきました。その間、環境に対する認識は大きく変化してきたと思います。公害→環境→自然環境という流れでしょうか。今回、協議会に参加させていただくことになり、メンバーを拝見しましたら國廣氏、廣川氏等「千葉県技術士会」でお世話になっている大先輩がおられることに驚くとともに、まだまだ教えられることの多さを痛感しました。大先輩ほど精力的に活動する自信はありませんが、できるだけ頑張ります。ご指導のほどよろしくお願い致します。

濱中 道人 (はまなか みちと)

市原市

はじめまして。市原市に住んでいる濱中道人です。

石油系会社を退職後、(財)千葉県産業振興センターで省エネルギーの相談員として千葉県下の中小企業を訪問し、経営者の考え方など勉強させていただきました。

現在は、環境認証の審査やコンサルタント等の活動を行っています。EA21審査人資格を取得したこともあり、EC千葉に本年4月に入会させていただきEMS支援センターで活動することになりました。

日頃から環境分野で少しでも社会貢献したいと思っています。よろしくお願い致します。

菱 孝 (ひし たかし)

事業者部門 船橋市

2001年の家電リサイクル法施行の2年前に三菱電機が市川に設立した東浜リサイクルセンターのOA機器部門の2代目社長としてリサイクル業に入りました。

その2年後に家電・OA機器のすべてのリサイクル処理を行うハイパーサイクルシステムズの社長となり、今年3月に退任しました。家電リサイクルの創生期から10年間の経営を行う中で得られた知見を生かし、廃棄物の適正処理にお役に立てればうれしく考えています。まだ、どのように生かしたら良いのかが分かっていませんが、よろしくお引き回しをお願いします。

訃報

故 藤田 忠宏殿

去る7月19日に逝去されました。

生前のご厚誼に感謝し、ご冥福をお祈りします。

受賞おめでとうございます！！

ECU便り

(ECU:NPO 環境カウンセラー全国連合会)

ECU 理事長 環境保全功労者表彰

本年6月24日のNPO環境カウンセラー全国連合会の通常総会で、つぎの方々が表彰されました。各氏のこれまでのご功労に感謝し、今後の益々のご健勝をお祈りします。まことにありがとうございます。

服部 達雄氏 理事 副理事長 事務局長 情報部長
EMS 支援センター副センター長

野口 康男氏 アドバイザー

藤田 忠宏氏 前監事 (故人)

服部 達雄氏は当協議会で2003年から理事に就任され、長年、地球温暖化対策センター副センター長および事務局長として尽力され2007年からは副理事長でもあり、かなめというべき活動を続けていただいています。野口 康男氏は当協議会の設立以来、運営委員および理事でEA21地域事務局員、EMS支援センター副センター長としてEA21の普及活動に貢献され、地球温暖化対策活動でも活動されました。また藤田 忠宏氏は、2002年から当協議会の運営委員、さらには2003年から2年間、理事に就任して当協議会およびECU(全国連合会)の副理事長で活躍され、その後6年間、当協議会の監事の重責を果たされました。

当協議会にとっては、今日までECU理事長表彰を9人が表彰を受けたこととなります。

日本水環境学会関東支部 水環境保全活動奨励賞

本年6月24日、日本水環境学会関東支部から水環境対策センターが実施した浄化槽に関する啓発活動は地域の水環境保全に重要な業績であるとされ「水環境保全活動奨励賞」をいただきました。

ちばコープ殿 ちばコープ地域かがやき賞

本年3月、生活協同組合ちばコープ殿から当協議会が県内での地域活性化などにむけて活動したとして社会貢献賞ちばコープ地域かがやき賞を受賞しました。

理事・ECU担当 土田 茂通

平成23年度通常総会が平成23年6月24日に開催された。平成22年度の活動報告、決算報告書、監査報告書、平成23年度事業計画書、収支予算書を審議し、原案通りで承認された。平成23年度の事業計画はつぎのとおりである。

- ① 環境教育インストラクター認定登録
- ② 環境教育インストラクター認定セミナー
- ③ 環境カウンセラー登録支援セミナー
- ④ 環境教育インストラクターフォローアップ研修
- ⑤ 一般教育支援
- ⑥ 緑化エコリーダー養成セミナー
- ⑦ エコピープル受験対策支援
- ⑧ 環境カウンセラー全国交流会
- ⑨ 環境教育教材企画制作
- ⑩ エコプロダクツ展出版
- ⑪ 環境省公募事業
- ⑫ 環境カウンセラー研修会、

⑥および⑦は、当協議会の小角顧問が担当し、⑫は、土田理事・相談役が担当している。

総務部からのお知らせ

2010年8月19日～2011年6月5日の間、当協議会(EC千葉)への寄付金として、つぎの方々がいただきました。

青木 誠様	40,000 円、	有馬 富穂様	30,000 円
上口 清彦様	13,000 円、	國廣 隆紀様	27,000 円
久保田 隆様	4,000 円、	荒野 喆也様	10,000 円
鈴木 優子様	5,000 円、	種本 利治様	59,390 円
戸村 泰様	75,000 円、	西田 啓作様	39,500 円
二宮 恵様	39,000 円、	野口 久様	34,000 円
福井 信行様	18,000 円、	古川 邦男様	10,000 円

ありがとうございました。

広報 環境カウンセラーちば 第40号 (発行日 2011年8月7日)

発行：特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会 (発行責任者：國廣 隆紀 会員：125名)

URL：<http://www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm>

事務所：〒261-0011 千葉市美浜区真砂3丁目18番2棟505号 戸村 泰方 (郵便宛先)

事務局：Tel& Fax 043-276-7300 服部達雄 ec_chiba_exec@yahoo.co.jp (各種ご相談、お問い合わせ先)

郵便振替口座：00110-5-34692 (加入者名：NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会) 会費はこちらに！

編集：広報部 國廣 隆紀・佐藤 素子・二宮 恵・松本 源寿

E-Mail pxz04373@nifty.ne.jp (記事寄稿先)

再生紙を使っています。